

上州出張記憶書

775



114
A 3969

上州出張記憶書



前田正名

大正十一年四月
大隈侯爵邸寄贈

十二月十七日午後一時東京ヲ発ス下館ノ結城ニ今般
 出張スル所ノ地ニ非サレバ是レ復々做物ノ要地ナル故ニ
 親シク回覧セシム欲シテ故ニ枉進ス此ヲ以テ路ヲ宇津宮
 街道ニ取り千住ヲ出テ粕壁駅ニ宿ス
 昔往過スル所ノ土質ハ雨後ナルカ故ニ詳細ニ是非ヲ下
 シ難シ○田地ノ分畫ハ甚々細小ニ過タリ○蕎麥ノ様子
 甚々粗悪ナリ○道路ノ水吐極ク拙陋ナリ○牛馬一頭ヲ
 見ス農ノ富ニ画ニ在リト云フ格言ナルニ如何ナレ故ニヤ

○新造ノ建築物ヲ見ス○人民貧富ノ差著明
ナラス○綿ノ耕作ハ随分勸奨スヘキナリ

十八日結城ニ入ル人家凡ソ一千戸

該地ノ織物ハ重シ結城在ノ大谷瀬○小森○小橋
○中村等ニテ製シ結城ノ町ニテハ製スルヲ稀ナリ
種類ニ三様アリ即チ左ノ如シ

和一 結城油

才二 結城本場才綿織 絹糸

才三 高機 絹糸

結城ニハ一休養蚕ヤシ繭ヲ上州ヨリ仕入ル東テ当地ニテ
製糸ス然レ真綿モ上等ヤシ仕入レテ此ヨリ製糸
スト云フ

右前ヨリ真綿トナレテ而シテ後々製糸スルト真綿ヲ
直ニ製糸スルトリ同ハス何レモシテモ其製糸スルニ
真綿ノ目方二十五文ニ付キ年間新ニ十ギナリ
而シテ先及ふノ真綿ノ目方ハ八十文ナリ
真綿ノ相場近頃五十文ニ付キ凡ク是田ナリ右ノ相場
ニ付テ来テ前ノ如ク製糸スルキニ付テ製糸但シ
其製糸スルニ器械ヲ用エシ其糸ヨリ芝輝ヲ生
所謂ル結城綿ノ芝輝ナク本綿縞ラニキ所ノ本色ヨ
夫スルカ故ニ是非共ニキニテ製糸ト云フ
製糸段ニ成就シテ是レヨリ漆代糊所其他諸雜

費ヲ台集シテ是田ト云フ
細ハ製糸一人ニ付キ凡ク一ヶ月ニモ及トス而シテ当地
ヨリノ一々年ノ産額凡ク先萬及ニ上ラスト云フ
本場木綿ノ産額ハ一々年凡ク五々文
本場木綿ノ銷入ト銷無シトノ産出額割合高ハ凡ク
銷入ハ百銷無シハ十ノ如シ
細ノ價直ハ一々月先及トシテ凡ク六田ナリ此ノ年間新
一田止控交ナリ一日ノ年間新凡ク控交
近江屋ナシ南家ナリ該家綿木綿織物ノ取引高
一々年凡ク二万田ナリ質ノ取引高凡ク一万田ナリ

白雉堂物等ノ取引高凡ノ三四萬田ト云フ候物類
ノ高ニテハ該地中一ト云フ

十九日結城ヨリ路リ多功富ニ取リテ在宮駅ヲ過テ
宇津宮ニ出ツ途中花田村ヲ過リテ大泉野アリ眼測
スルニ凡リ二里四方ナルヘシ之ヲ土俗ニ問フニ此泉野ハ田果
此ノ近傍五ヶ村ノ共用牧場ナリト云フ然レ此五ヶ村ハ
必ラス此曠大ノ泉野ヲ要スル程ノ牛馬アルニ非ラスシテ
其共用牧場ト為ス所以ハ柳モ此ノ大泉野ニ在ル村ノ
指スル境界利然セサルカ故ニ榊木ヲ植養スレハ隨テ傍
議ノ媒介トナシテ故ニ此面倒ヲ生セサルカ故ニ泉野ノ
儘ニ善シテ多カクサルノ牛馬ヲ放ツテ姑息スル迄ノ
トナリト云フ候ニ此ノ如キ泉野此ノ際一ニシテ止マズ而シテ

其用之所、右ノ如クナレハ、牧場ニモ概シテ餘リアレドモ、
暫ク一歩ヲ讓リ、牧場ニ充カサシ、切用アリト者、
倣スモ其用ハ、四時ノ中一時ニ過キスレテ、餘ノ三時、
殆レト無用ニ付シテ、閑却セリ。況ンヤ其牧場ヲモ概ホ
餘リアレハ、於テヤ其無用ニ属スル所、果シテ如何ノ
ヤ是レ牛馬ヲ養育スルノ重要ナルヲ知ラサル故ニ
モスルナリ。尤モ花田、藤川、西村辺ニテハ、頗ル馬
ヲ養フモノアレドモ、中々二里四方ノ原野ニ放ツ程ノ事
ナキハ、里佐ノ言ニ相違ナキナリ。且ツ此辺ノ民俗皆
枯草蓄田蔵ノ事ヲ知ラス。

民家ヲ見ルニ、多ク蒿木ヲ敷ケリ。是レ防霜ノ事也。
ニテ農家ニハ至極要用ナリ。然レハ、顧ニ此敷蒿ハ、徒
・禁テ灰トナシ、肥料ニ供スルニ過キサルヘシ。若シ斯ノ
如キニ止マラハ、誠ニ惜ムヘキナリ。故ニ此ノ蒿ノ霜除ノ切
能ク成就シテ後キ一處ニ、鬼集ニ層合シテ、牛馬ノ糞
尿ヲ澆キ腐化シテ、アムモノアレ、氣ヲ化成シ、以テ肥料
トナサハ、無上ノ肥料タルヘシ。是レ民家ニ多ク、牛馬ノ糞
ハ、隨テ肥料ヲ増益スルノ理ナリ。乃チ一舉兩得ノ
切ナリ。

踏傍ノ零賣店ヲ見ルニ、多ク食物衣類ノミニニシテ

舗道具器械ヲ賣ルモノ稀ナリ

田面ヲ見ルニ矢張テ畵甚々細小ナリ是レ水吐ノ
水勢ヲ急ナラシメテトノ意ニテ至極妙ナレ凡又々一
方ヨリ見ルニ其畵アリ如何トナレハ畵細小ナレ
畦道多カクサレテ得ス畦道多ケレハ随テ地面ヲ
損スルコト多シトス是レ復々自然ノ理ナリ且ツ
水道ノ掃除甚々不潔ナリ是レ秋後落水ニ
甚々關係アリモノナレハ注意セザレハカクサルナリ
村落ノ人家餘リ一處ニ群簇スルニ過ナリ而シテ
村落ハ皆落々々々老樹古木多シ觀ニ是レ

該村落ノ民ノ栖住スルコト該老樹ト共ニ久シキ
昔ヨリ村落ヲ為セシモノナルヘシ而シテ今日樹
木ハ空リ凌々枝ヲ垂レ古色鬱鬱然々々ノ美ヲ
表スレ凡氏家生産力ハ數百年ノ昔ニ同シク依
然トシテ増盛スルノ模様ヲ見ズ

田園ヲ見ルニ穀物野菜等ノ農家本色ノモノ、
ミニテ其保助ノ産物ナシ即チ樞茶、桑、胡桃、楸
等ノ如キモノ一本ヲモ植付タルヲ見ス又々鶏豚ノ
如キモノ至テ稀ナリ且ツ増殖スルノ情勢ナシ
村々方ニ今マ農事ヲ了レシ所謂秋祭ノ様子ニテ

村氏多ク村社及ヒ地蔵觀音等ニ群集シ鼓笛
相樂ムノ情態頗ル年堂ヲ徵スルニ足リ然レ
其民情ヲ察スルニ進取ノ氣象ナキカ如シ是レ
宗教ノ民情ヲ鼓舞スルモノナキカ故ナリ何レ宗
教ヲ以テ民情ヲ鼓舞セザレハ開進ノ氣象ハ勸
奨スルニ難シ

通運ヲ勸奨スルハ道路ニ在リ而シテ道路ハ國
道縣道村道ノ三種ノ内ニ國縣二道固ヨリ重
要ナレ氏村道モ亦又決シテ等ノ案ニ付スヘキモ
ノニ派ラス殊ニ農事ヲ勸奨スルニハ村道ヲ

改良セザルヘカラス村道ヲ改良スルハ村費ヲ用ヒ
ヘシ其勸奨ノ如何ハ將々何人ノ任ナレヤ

處々ニ程ノクノキ多シ此他種々ノ樹木多キ内ニ右
兩種ハ最モ重要ナリ此樹ハ日本ニ至極稀少
ノモノト思居タリシニ今日所見ノ如キハ實ニ我國
ノ至宝ナリ如何トナレハ堅艦ノ甲板ハ是非右ノ程
ノ種類節々根ヨリ數十間枝ナキモノヲ必用ト
スル所ナリ

縣廳ノ關係スルモノハ農ナリ然レハ縣官ハ農ノ
改良ヲ時々告諭面命スヘキナリ

村々、小学校の重農ノ歴史及ヒ四時ノ農事
ヲ懇論スヘキナリ
日本ノ経済ハ農ニ在リ然レハ抑モ大蔵ヨリ勸農
ニ萬事先率テシテ勸奨スヘキ筈ナリ然レ今日
ニテハ勸農ヨリ大蔵ニ過忠スルノ情態アリ是レ
大ニ日本経済ノ大趣方ニ北月ナリ

宇津宮

苗地人家凡ソ三千戸ナリ
養蚕ハ多カラス

前ノ浦藤高一千七百石

内

一千六百石ハ凡ソ他縣ヨリ仰ク殊ニ福岡ヨリ仰キ
凡ソ百石ハ当地自製ナリ然レ凡ソ此近傍東野
曠大ナルカ故ニ桑ヲ植付養蚕ノ業ヲ興セハ
随分地積ハ良地ナレハ盛大ニ蠶糸育スルハ必
定ナレハ他縣ヨリノ前リ仰ク及ハスト云フ

殊更苗、新鮮ノモノヲ要スレバ其他縣ヨリ運ブ
ニ至テ運輸ノ道路甚々不便ニシテ終ニ橋境ノ
降路ト雖氏數日ヲ要スルヲアリ況ンヤ奥州地
方ヨリ運輸スルニ至リテハ最モ多ク時日ヲ經過シ
為ニ自然ト陳旧ノ品ニ至ルノ憾アリト云フ
糸ノ産出額凡ソ下年一千三百六拾貫目
繭一斤ニ付テ糸八匁繭一匁ニ付テ糸八匁
ナリ
糸ノ俵數凡ソ下年而五拾一俵
製糸ノ紅女ハ先ツ十三年ノ年數ヨリ向フセ

年ノ約束ニテ雇フ而シテ其十五六ノ年數ニ
至ルモノヲ最上トス然レ右七々年而六種々ノ
事故マリテ金ク約束ノ期限七々年ヲ約束通
ニ勤ムルモノナシ例之ハ父母ノ疾病自身ノ
患害殊ニ嫁娶等ニテ辭去スルモノ收養スル
ニ違マラス故ニ齡十三年ニシテ始メテ談業ニ
従事スルモノ一々年位ハ金ク未熟ニシテ物ノ用ニ
立タヌ二十年三々年ト務ヤ熟練ノ域ニ至
レハ年數既ニ十七ハニ違シ恰モ嫁娶ノ期ニ
近ルリ以テ漸々辭去シテ復タ止マルモノナシ

是は最モ傭主ノ困却ヲ來トスモノナリト云フ

廿日宇津宮ヨリ佐野・梁田ニ至ル迄ノ地質ヲ
一覽觀スルニ三種アリ而シテ何レモ上等ナリ但
ニ此際モ結城辺ノ如ク矢張り農具ノ租拙
運輸ノ不便勝ナルカ故ニ農ノ成果實ニ瑣ク
シテ切勞相償ハサルナリ且ツ桑ノ植付モ處
々アレバ種藝ノ法佛伊等ニ比スレバ甚拙ナルマ
膏壤ノ差アリ
運輸ノ不便ト農具ノ陋拙ト餘業ノ欠乏ト此
三者ハ學校ト共ニ改進セサルヘカラス而シテ農
事ノ為ニハ拭擦場ヲ設ケサルヘカラス又々道傍

小兒ノ遊戯ス人多シ而シテ其遊戯スレテ恰モ印
度人ノ曠野ニ生活スルノ情況ヲ免カレサルニ似
リ是レ大ニ後來ノ向進ニ善ク遺スレケレハ頼ク早ク
幼童保護遊戯所ヲ設ケテキテナリ
此、田政野ニシテ處々ニ石灰石アルヲ見ル是レ農
事ニ重要ナリ在昔佛國ノ農モ石灰ノ功ヲ知ラス
先哲數々其功ヲ農ニ告諭スレ氏頑ニシテ服セズ
故ニ先哲其言語ヲ以テ強クエカクサルヲ知り突例
ヲ詔示セシト欲シ麦ヲ播スルニ當テ石灰ヲ以テ畦
圃ニ掺シ託子ヲ付セシニ其化号ノ所ノニ麦ノ生

長スルヲ著大ニシテ其化号ノ應カトシテ觀ルニ一
ニ至レリ此ニ於テ農大ニ其言ニ服シ石灰ヲ使用ス
ルヲ今日ノ盛大ニ至レリ
抑モ此行途遠以来今日ニ至ルマテ農事ヲ言フ
モノ居多クナルヲ以テ皮相速クスレハ理財上ノ点ニ
迂濶ナルカ如シト能ク理財ニ經濟ニ出サレ一カ
經濟ニ農ニ根本セサルヘキナルカ故ニ今日農ヲ説
クハ即チ財政ノ根本ヲ説クナリ

前橋

該地固ヨリ繭ヲ製スレバ其生糸製糸造ニ充分
スルノ需要ニ應ジ難シ故ニ繭ハ多ク他ノ地方ニ
抑ク殊ニ十里内外ニ買フト云フ

該地生糸製造ノ温飭ハ判然セス然レシ六十年
以上ノ公羽ノ言ニ依ルニ其幼雅ノ時ヨリ既ニ此製糸
アリシト云ヘハ六十年以前ヨリ此事アリシハ明白
ナリ

該地現今製糸職工ハ五十五名ナリ然レバ充分
施行スルニハ五千人ヲ要ス而シテ其年間料ハ一ヶ月

三四より七田に至ると云フ然り而シテ開港以來換
地及近傍ノ富貴ハ日來ニ比較スレハ凡ソ五十
倍ト云フ

生糸ノ市場ハ毎月四九ノ日ナリ而シテ産ニ桐
生是利等ヨリ高買ノ来リ買フモノ多シトス

生糸ハ横濱開港以前ハ産ニ京都ニ販賣
ス然レ其産額ノ増加シ今日ノ景況ニ至リシ
モノハ職トシテ開港ニ由ルト云フ

生糸ノ品位ニ自然ト上中下ノ三等アリ是レ蓋シ
繭ニ既ニ上中下ノ差アルニ由ルナリ故ニ生糸ヲ改

良セント欲セハ其根本ノ繭ヲ改良セサルヘカク
サルナリ

地質ニ上中下ノ三等アリ而シテ上等地ノ糸ノ
中品ハ下等地上品ニ相對スルナリ但シ如何
程上等地ナリ凡ソ矢張り其上等中ニ幾分差
ヲ生ズルハ自然ノ理ニシテ決シテ上等地ニ上等糸
ノミ産シテ中等下等ヲ生セスト云フ事ハナキ
ナリ

該地ニ北テハ桑ヲ育スルニ大水ニ至ラシメス大枝ハ
年々切り取ルカ故ニ從テ年々新芽ヲ生シ一株

ヨリ數本ヲ叢生セリ信州以モ亦々然リト云フ
然レ凡該地ヨリ以上山ノ手ニナルニ後テ本ニ仕立
テ、摘葉ノ時ハ梯ヲ用元ニ至ルト云フ
中品以上ノ繭ハ番城ニ勝ヘス故ニ糸ヲ改良セシ
ト欲セハ先ツ繭ヲ改良セサルハカラスルナリ
上品ノ糸ニ至リテハ該地ト紐氏宙岡ニ一歩ヲ讓
ラス然レモ概シテ禰スレハ田圃ノ故アリ一掃セサ
ルハカラスルナリ是レ蚕低ノ濫用ナレハ之レヲ
改良セサルハカラスルナリ即チ蚕低五枚ヲ使用ス
ル所ヲ二枚ニ節シ此ニ枚ヲ極ク丁寧ニ注意

シテ是事スレハ役令糸ノ産額ハ少ナク凡上等品
ヲ産スヘケレハ其價直ハ却テ下等品ノ多額ナル
モノヨリモ増加スヘシ況ンヤ世ニ信用ヲ増スル光榮
アルニ於テヤ其直向兩様ノ利益アル固ヨリ
禰ヲ待サルナリ
該地ヨリ頃日共進會ニ出タルモノ、言ニ該會ニ
於テ從來生糸ヲ以テ世ニ知ラセリシ地方ノ産
ニシテ有名ナル地ノ産ニモ劣ラサル上等品ヲ産
シタルヲ見タムカ故ニ感歎ニ勝ヘス其二三ヲ撰ク
歸リテ同志ニ示シ勉強セサルハカラスルヲ論シタリ

ト云フ

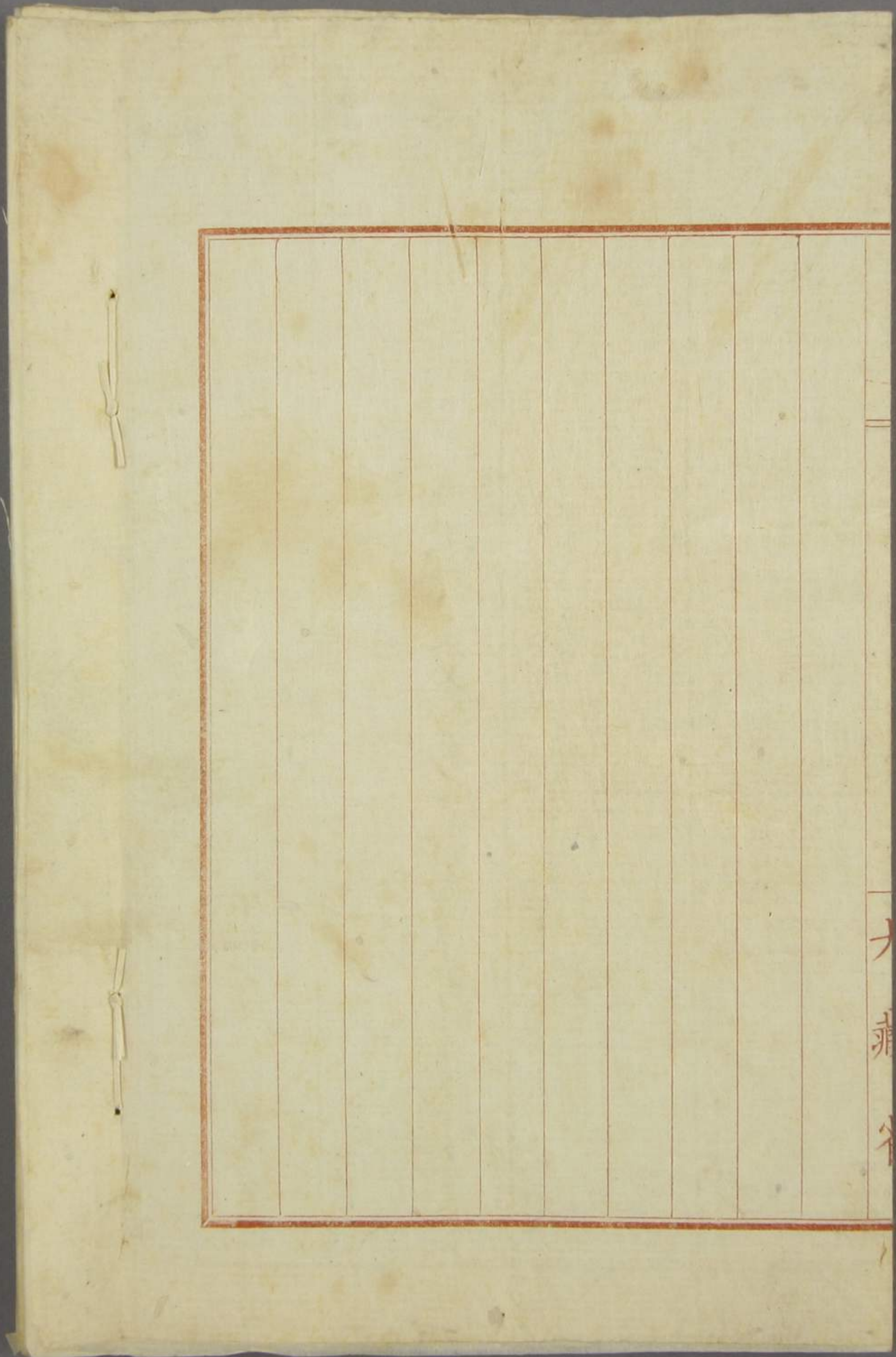
該地ニハ房^ルルヨリ精製スルノ器械ナシ
知^ル氏此器械ヲ設置シテ之ヲ製セ、其此地ニ
通スルヤ論ヲ待サルナリ而シテ富岡ノ器械ハ
却テ此地ニ設置スルヲ便ナリスルカ如シ
該地ノ生糸名製送^ル元東土官去來候等其
他生糸ニ必須ナル一種固有ノ事アリテ新業
セシ^テ此^ノ就^ルス固ヨリ一時偶然ニ出タルナリ是
然シナリ獨リ該地ノニ^ニ球^ラス現今生糸ヲ
以テ世ニ稱セラル、地方悉ク此類ノ情況ニ出

ナルハ^ハ是^ニ由^テ之^レヲ^ハ親^シハ生糸製送^ノ方
ヲ尚^ハス出^リ論^セス惟^タ人ノ勉^メ強^ムル所^ニ在^リ
成^ル大^ニ進^ムモ^トナルヤ蓋^シ疑^フハ^ハ容^レサルナリ

廿二日富岡製糸所ヲ觀ル概シテ言ハ該所
管理不行由ナリ其故如何トナレハ職工紅女ノ輩
氣入レ專ハララス之レヲ王子ノ抄紙所ニ比較スレハ
敷等ヲ下タルモノ、如シ且ツ諸室内不潔ナリ
此製糸所明治五年以來今日迄改良進步セ
シ報告記載ナシ又々年々製糸ノ上中下ノ生産
額比例表ノ明記スルモノナキヲ以テ幾年ヲ經ル
モ製造教育ノ改良スル目的ナシ
滿ノ第一等ノ品ヨリ又々更ニ上中下三等ヲ区
別スルアリ且ツ甚々レキニ至リテハ是レヨリ等外

ヲ生スル一アリト云フ是レ元年蚕紙製造ノ
不行届ヨリ生スルモノナリ故ニ南ノ製糸サヘ丁寧
ニ注意スレハ此ノ數品ノ區別ヲ生スルモノニ非ラズ
既ニ中島領事ノ言ニ伊国ニ在テハ現今唯々
二種ノ區別アルノミト云フ是レ全ク製衣造教
育ノ改良ニ根據スルモノナリ又曰ク伊国ニ在
テハ此ノ富岡ノ如キ盛大ノ器械所ナシ大抵皆ナ
之レヨリ一層小ナルモノ、ミナリト
抑モ該地ノ器械ハ其仕掛ト仕事ト相当セス
レテ仕掛過大ナリ且ツ該地ニ在テモ矢張り

南ノ産額不足スル一ナレハ此近傍ニ南ヲ製ス
ル女紅場ヲ設ケ極上等ノ南ヲ製スル一ヲ學
ハシメタキ一ナリ而シテ此ノ女紅場ヨリ卒業
ノモノヲ方々ノ地ニ分テ(官或ハ私ニテ)上等ノ南
ヲ製セシムヘシ
斯ノ如ク盛大ナル大盛製造所ニハ必ラス境内ニ
寺院ヲ設ケサルヘカラス
該地製糸ノ記表ヲ見ルニ佛人ヲ支既人トシテ
記セリ是レ極々不注意ノ至ナリ直ニ改正セサ
ルヘカラスナリ)



大
鼎